

体育における学習意欲と親子関係との関連性

Achievement motivation for learning in physical education and parent-child relationship

西田 保* 天野 彰夫** 西田 紀江***

Tamotsu NISHIDA *, Akio AMANO **, Norie NISHIDA ***

To investigate determinants of achievement motivation for learning in physical education, this study mainly examined relationships between the achievement motivation and parent-child relationship.

Subjects were 255 junior high schoolboys and girls, and their parents. They were tested strength of the achievement motivation for learning in physical education, the parent-child relationship, number of brothers/sisters or friends, birth order, and so forth. To assess the achievement motivation for learning in physical education, the Achievement Motivation in Physical Education Test (AMPET) developed by Nishida was used. The AMPET, a self-report questionnaire, consists of seven subscales named as learning strategy, overcoming obstacles, diligence and seriousness, competence of motor ability, value of learning, anxiety about stress-causing situations, and failure anxiety, respectively.

In view of the data presented in this study, low correlations were found between the AMPET and parent-child relationship. The testing range or situations of the AMPET were limited in physical education, but those of the scale to measure parent-child relationship were general. Such testing difference of the two scales would reduce the correlations between the AMPET and the parent-child relationship. Number of brothers/sisters and birth order did not effect on the AMPET scores. Those who had many friends, however, showed significantly high tendency to achieve success and low tendency to avoid failure. For the next step, further investigations have to concentrate on considering the environmental or social factors (past experience in physical activity, involvement in sport, and so forth) which determine the strength of the achievement motivation for learning in physical education.

目 的

達成動機がどのような過程を通して発達してくるのかについては、乳幼児期あるいは幼少時での親子関係に伴う感情経験をを通してであるとする考え方が一般的である。達成動機の発達や規定因に関する従来の研究も、生育過程における環境的要因、特に親の養育態度やそれに伴う感情的経験を取りあげたものが多い。例えば、Winterbottom⁸⁾は、達成動機の高い子供を持つ母親は、幼少の頃

から自分の子供に要求的しつけ（こうしなさい、こうなってほしい）を制限的しつけ（こうしてはいけない、こういう子にならないように）よりも多く与えていたり、子供のしたことをより高く評価しほめることなどの特徴を見出している。そして、達成動機の発達は、自立訓練やそれに伴う感情的経験によって育成されるとする McClelland²⁾の仮説を支持した。日本でも達成動機と自立訓練との関係を調べた研究がいくつかある（林・山内¹⁾、宮本ら³⁾）。それによると、日本の母親の

* 名古屋大学総合保健体育科学センター

** 愛知教育大学

*** 日本福祉大学非常勤講師

* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

** Aichi University of Education

*** Nihon Fukushi University

方が全般的により早くから要求的しつけを行う傾向のあることなど必ずしも Winterbottom の研究と一致した結果ではなかった。しかしながら、達成動機が親子関係に伴う感情的経験の中で育成されるという点では両者とも一致している。

さて、西田⁶⁾は、体育における学習意欲の強さを測定する検査を標準化している。その際には、達成動機づけの観点から体育における学習意欲を説明し、体育における学習意欲とは、「体育における学習活動を自発的、積極的に推進させ、それらの学習を一定の卓越した水準にまで到達させようとする内発的動機づけ」であると定義している。つまり、体育における学習意欲と達成動機づけとは、かなり類似した概念である。従って、これまでの達成動機の発達や規定因に関する研究から、体育における学習意欲が育つ背景には良好な親子関係が存在しているものと仮定される。

本研究は、体育における学習意欲の規定因や発達過程を探る中で、今回は、主として親子関係という要因を取りあげ、体育における学習意欲の強さは、子供と両親との良好な関係に依存しているという仮説を検証する目的で行われた。

方 法

1. 調査対象者

対象者は、愛知県内在住の中学1、2年生男子115名、女子140名の計255名と彼らの両親(父親、母親各255名)である。

2. 調査時期

調査は、1988年12月から1989年1月にかけて実施された。

3. 調査内容

(1) 体育における学習意欲

西田(1987⁴⁾、1988⁵⁾、1989⁶⁾が開発し標準化した体育における学習意欲検査(AMPET)が用いられた。この検査は、質問紙法による自己評定尺度であり、児童・生徒の体育における学習意欲の強さを測定するものである。測定できる内容

(下位尺度)は、①学習ストラテジー、②困難の克服、③学習の規範的態度、④運動の有能感、⑤学習の価値、⑥緊張性不安、⑦失敗不安の7つである。これらの下位尺度のうち、①学習ストラテジーから⑤学習の価値までの5つの下位尺度は、体育学習へ積極的に努力する「意欲的側面」を測定するものであり、⑥緊張性不安と⑦失敗不安の下位尺度は、体育学習からの「回避的側面」を測定するものである。また、調査対象者の虚偽の反応をチェックするための虚構尺度(L尺度)が含まれている。それぞれの下位尺度は8項目ずつなので、検査項目の合計数は計64である。

各項目への反応は5段階で行われ、「よくあてはまる」に5点、「ややあてはまる」に4点、「どちらともいえない」に3点、「ややあてはまらない」に2点、「まったくあてはまらない」に1点が与えられた。得点が高いほどその特徴が強いことを示している。

(2) 親子関係

親子の関係を調べる場合、両親からみた自分自身の子供に対する態度や扱い方と子供からみた両親の態度や扱い方の両方から調査する必要がある。本研究では、この特性を生かしたTK式診断的新親子関係検査⁷⁾が用いられた。従って、この検査は両親用と子供用の2種類からなっている。調査内容は、両親用、子供用とも、拒否(不満、非難)、支配(厳格、期待)、保護(干渉、心配)、服従(溺愛、盲従)、矛盾、不一致といったものであり、それぞれの側面についてどの程度問題傾向があるのかをみるものである。両親用、子供用とも4件法「ぴったりあてはまる(1)、だいたいあてはまる(2)、あまりあてはまらない(3)、ぜんぜんあてはまらない(4)」の応答であり、項目数は各80である。得点が高いほど親子関係における問題傾向が少ないことを示し、親の態度や扱い方が良好であることを示している。

(3) 兄弟の有無、出生順位など

本研究の補足的な観点から、調査対象者の兄弟数(自分を含む)、兄弟のパターン(男、女、男と女)、出生順位(長子と末子)、日頃から親しい友人数などが調査された。

4. 調査方法

AMPET, 子供用親子関係検査, 兄弟数, 兄弟のパターン, 出生順位, 友人数などの調査は, 担任教師を通じてクラスごとに実施された。両親用親子関係検査は, 生徒の両親に調査の目的を説明してから各家庭で記入して頂いた。なお, AMPETの実施時には, 質問文にでてくる「運動」とは体育の授業中に経験する運動のことであり, 質問項目の内容も全て体育の授業に関してであることが強調された。全ての調査が完了した段階で調査表が回収された。

結 果

1. AMPET の得点

AMPET 各下位尺度の平均と標準偏差の値を, 本研究の調査対象者と AMPET の標準化集団とに分けて示したのが表 1 である。標準化集団の値は, 西田⁶⁾が中学生男女計 3,346 名を対象に AMPET を標準化し, 評価基準を作成した時の値である。その結果, ①学習ストラテジー, ②困難の克服, ③学習の規範的態度, ⑤学習の価値などの体育学習への意欲的側面に関する得点は, 今回の対象者の方がやや高い値を示した。一方, ⑥緊張性不安や⑦失敗不安などの回避的側面に関しては, 両集団ともほぼ一致した値だった。

2. 体育における学習意欲と親子関係

調査対象者全体で, AMPET 得点と親子関係検査得点との相関係数を求めた。表 2 には, 統計的に有意な相関だけ(有意水準 5%以下)が示されている。その結果, 全体的には低い相関係数が認められた。例えば, まず, 体育学習への意欲的側面に着目してみると, 子供からみた両親に対する「拒否」との間に低い有意な正の相関($r=.130$ と $r=.141$)が, 「保護」, 「服従」との間には低い有意な負の相関($r=-.141$ ~ $r=-.285$)がみられた。しかしながら, この意欲的側面と両親からみた子供に対する態度や扱い方との間には, 有意な相関関係は認められなかった。

次に, 体育学習への回避的側面と親子関係との

表 1 本研究対象者および標準化集団の AMPET 得点

対象者		本 研 究 (n=255)	標準化集団 (n=3,346)
学習ストラテジー	M	28.33	26.58
	SD	5.62	5.48
困難の克服	M	27.01	25.91
	SD	5.98	5.82
学習の規範的態度	M	29.22	27.77
	SD	5.07	5.05
運動の有能感	M	21.09	21.24
	SD	7.76	6.79
学習の価値	M	29.88	28.97
	SD	6.04	5.79
緊張性不安	M	26.54	25.66
	SD	7.50	7.14
失敗不安	M	23.67	23.61
	SD	6.94	6.33
意欲的側面	M	135.52	130.48
	SD	22.39	22.76
回避的側面	M	50.21	49.27
	SD	13.11	12.28

関連性をみると, 子供からみた両親に対する「拒否」, 「支配」, 「矛盾」, 「不一致」との間に, 低い有意な負の相関($r=-.143$ ~ $r=-.250$)が認められた。また, 回避的側面と両親からみた親子関係との間には, 有意な相関関係はほとんどみられなかった。

同様の分析を男女別に行ったところ, 男子においては, 調査対象全体の時とはほぼ同様の結果が得られると共に, 母親からみた子供に対する態度(拒否, 支配, 服従, 矛盾, 不一致)と AMPET との間に低い相関がみられた($r=-.244$ ~ $r=.234$)。これに対して女子は, 子供からみた両親の態度や扱い方と AMPET 得点とに調査対象全体と同様の低い相関がいくつかみられるものの, AMPET 得点と親子関係検査得点の間には高い相関関係がほとんどみられなかった。

一方, 体育における学習意欲と親子関係との関連性を別の視点からも分析してみた。すなわち, 親子関係検査のいずれの下位尺度とも親の態度や

扱い方が安全圏内にある「安全地帯」の者と、それ以外の「危険地帯」や「中間地帯」にある者のAMPET得点を比較検討した(表3参照)。その結果、全体的には、両群間に顕著な得点差は認められなかった。しかしながら、子供からみた父親の態度が「安全地帯」の者は、「危険地帯」ある

いは「中間地帯」の者よりも①学習ストラテジー、⑦失敗不安、回避的側面の得点が有意に低かった。また、このような傾向は、子供からみた母親の①学習ストラテジーや母親からみた子供の⑤学習の価値においてもみられた。

表2 体育における学習意欲得点と親子関係検査得点との相関

親子関係		AMPET		体育学習への意欲的側面			体育学習への回避的側面		
		拒否	支配	全体	男子	女子	全体	男子	女子
子 → 父	保護			0.141			-0.250	-0.226	-0.265
	従順			-0.141	-0.207		-0.223	-0.201	-0.250
	矛盾			-0.262	-0.280	-0.222			
	不一致						-0.180	-0.235	
子 → 母	保護			0.130			-0.213	-0.215	-0.195
	従順			-0.199	-0.234		-0.249	-0.297	-0.205
	矛盾			-0.285	-0.304	-0.231			
	不一致							-0.193	
父 → 子	保護								
	従順								
	矛盾								
	不一致								
母 → 子	保護				0.227				
	従順				0.234				
	矛盾							-0.244	
	不一致						-0.159	-0.242	-0.216

(統計的に有意な相関だけを記載：有意水準5%以下)

表3 親子関係からみた AMPET 得点

親子関係		子 → 父			子 → 母		
		安 全 (n=31)	危 険・中 間 (n=30)	t 値 df=59	安 全 (n=38)	危 険・中 間 (n=22)	t 値 df=58
学習ストラテジー	M	27.0	29.9	-2.26*	25.8	30.0	-2.92**
	SD	5.5	4.4		5.5	4.7	
困難の克服	M	26.5	26.3		25.6	28.0	
	SD	5.1	5.6		5.5	6.1	
学習の規範的態度	M	29.3	28.0		29.5	29.2	
	SD	4.7	5.6		4.6	4.4	
運動の有能感	M	20.1	20.4		19.6	19.2	
	SD	6.9	7.2		7.3	7.4	
学習の価値	M	30.1	31.1		28.5	31.1	
	SD	5.8	3.9		6.5	4.3	
緊張性不安	M	25.2	28.5		25.1	27.5	
	SD	6.8	7.7		7.7	6.8	
失敗不安	M	22.5	26.8	-2.42*	22.9	26.6	
	SD	7.3	6.4		7.6	6.0	
意欲的側面	M	132.9	135.7		129.1	137.6	
	SD	20.4	19.6		21.8	19.8	
回避的側面	M	47.7	55.3	-2.26*	48.0	54.1	
	SD	13.1	12.6		14.4	11.9	

親子関係		父 → 子		母 → 子		
		安 全 (n=57)	危 険・中 間 (n=13)	安 全 (n=51)	危 険・中 間 (n=21)	t 値 df=70
学習ストラテジー	M	28.2	27.0	28.6	27.6	
	SD	5.8	6.5	5.7	7.7	
困難の克服	M	26.7	25.7	26.6	26.1	
	SD	6.2	6.4	6.0	8.4	
学習の規範的態度	M	28.7	27.1	29.4	28.2	
	SD	5.4	5.4	4.9	6.2	
運動の有能感	M	20.8	21.5	21.0	19.5	
	SD	7.0	9.7	7.4	7.1	
学習の価値	M	29.3	31.1	29.1	32.0	-2.10*
	SD	5.7	5.3	5.8	3.9	
緊張性不安	M	25.1	26.2	25.3	26.9	
	SD	7.3	8.2	7.2	8.2	
失敗不安	M	23.1	25.8	22.2	25.0	
	SD	7.7	7.3	6.7	8.4	
意欲的側面	M	133.7	132.3	134.7	133.4	
	SD	22.2	25.9	22.8	27.3	
回避的側面	M	48.2	52.0	47.5	51.9	
	SD	13.9	13.9	12.9	15.8	

(*..... p < .05 **..... p < .01)

3. 体育における学習意欲と兄弟数, 兄弟のパターン, 出生順位, 友人数

体育における学習意欲と兄弟数との関連性を検討するために, 全対象者を自分を含む兄弟数によって, 1人(32名), 2人(135名), 3人以上(88名)という3つのグループに分類した。そして, 3群間の AMPET 各下位尺度得点を1要因の分散分析によって検定した。表4には, 各群の AMPET 得点の平均値および標準偏差ならびにF値が示されている。その結果, 兄弟が2人あるいは3人以上ある者は, 兄弟のいない者と比較して①学習ストラテジー, ②困難の克服, ③学習の規範的態度, ④運動の有能感, 意欲的側面の得点がやや高く, ⑥緊張性不安, ⑦失敗不安, 回避的側面の得点はやや低い傾向を示し, ⑦失敗不安においては5%水準で有意であった。しかしながら, その他のいずれの尺度も有意ではなかった。

兄弟のパターンを男子だけ(43名), 女子だけ(61名), 男と女(151名)の3グループに分け, 3群間の AMPET 各下位尺度得点を1要因分散分析によって検定した(表5参照)。その結果, 男子だけの場合は①学習ストラテジー, ②困難の克服, ③学習の規範的態度, ④運動の有能感, ⑤学習の価値, 意欲的側面の得点がやや高く, 女子だけの場合には⑥緊張性不安, ⑦失敗不安, 回避的側面の得点がやや高くなる傾向を示した。しかし, いずれの尺度も統計的に有意でなかった。

体育における学習意欲の出生順位による比較を検討するために, 全対象者の中から長子(長男, 長女)と末子の者を抽出した。該当する人数は, それぞれ96名と81名であった。表4には, その結果が示されている。両群の AMPET 各下位尺度得点を比較してみると, 末子の方が長子よりも, 体育における学習意欲の意欲的側面がやや高く回避

表4 AMPET と兄弟数, 長子および末子との関係

変数	AMPET	兄弟数			F 値 df=2/252	出生順位		t 値 df=175
		1人 (n=32)	2人 (n=135)	3人以上 (n=88)		長子 (n=96)	末子 (n=81)	
学習ストラテジー	M	28.03	28.27	28.52	0.102	28.26	28.42	-0.180
	SD	4.84	5.83	5.61		5.93	5.76	
困難の克服	M	26.63	27.19	26.86	0.154	26.42	27.94	-1.754
	SD	6.23	5.61	6.48		5.74	5.68	
学習の規範的態度	M	28.25	29.64	28.93	1.186	29.53	29.47	0.081
	SD	5.89	4.93	4.94		4.77	4.95	
運動の有能感	M	19.47	21.29	21.36	0.796	20.85	21.84	-0.869
	SD	8.67	7.63	7.63		7.15	7.92	
学習の価値	M	30.28	29.56	30.23	0.409	29.40	29.65	-0.269
	SD	5.58	5.91	6.43		5.78	6.51	
緊張性不安	M	26.91	26.55	26.39	0.056	26.24	26.35	-0.095
	SD	7.21	7.79	7.21		7.37	7.98	
失敗不安	M	25.47	22.67	24.56	3.261*	23.40	22.72	0.662
	SD	7.96	6.38	7.19		6.75	6.80	
意欲的側面	M	132.66	135.95	135.91	0.298	134.46	137.32	-0.883
	SD	24.20	21.11	23.77		20.29	22.59	
回避的側面	M	52.38	49.21	50.94	0.963	49.64	49.06	0.287
	SD	14.31	12.99	12.84		12.95	13.41	

(*…… p < .05)

表5 AMPET と兄弟のパターン、友人数との関係

変数	AMPET	兄弟のパターン			F 値 df=2/252	友人数			F 値 df=2/252	多重比較
		男 (n=43)	女 (n=61)	男女 (n=151)		①5人未満 (n=71)	②6-15人 (n=109)	③16人以上 (n=75)		
学習ストラテジー	M	28.9	28.4	28.1	0.34	26.9	28.3	29.7	4.58*	③>①
	SD	5.9	5.5	5.6		6.2	5.5	4.9		
困難の克服	M	27.6	26.6	27.0	0.39	25.6	26.3	29.3	8.81***	③>②①
	SD	6.1	5.9	6.0		6.3	5.6	5.7		
学習の規範的態度	M	29.3	29.2	29.2	0.02	28.0	29.1	30.5	4.67*	③>①
	SD	4.7	5.4	5.1		5.6	4.9	4.5		
運動の有能感	M	22.5	19.7	21.3	1.79	18.8	20.7	23.7	7.92***	③>②①
	SD	8.3	6.8	7.9		7.5	7.5	7.6		
学習の価値	M	31.1	29.6	29.6	1.01	29.5	29.0	31.5	4.33*	③>①②
	SD	5.9	6.8	5.8		6.7	6.3	4.7		
緊張性不安	M	25.9	28.2	26.0	2.06	28.9	26.1	24.9	5.64**	①>②③
	SD	7.3	7.1	7.6		7.3	7.6	7.0		
失敗不安	M	22.7	25.2	23.3	2.14	26.0	23.9	21.1	9.86***	①>②>③
	SD	6.2	6.2	7.3		6.7	7.1	6.2		
意欲的側面	M	139.4	133.4	135.2	0.93	128.8	133.5	144.8	10.89***	③>②①
	SD	22.7	22.2	22.4		24.4	21.0	19.4		
回避的側面	M	48.6	53.4	49.4	2.52	54.9	50.0	46.0	8.96***	①>②>③
	SD	12.2	12.3	13.5		12.6	13.1	12.2		

(*…… p < .05 **…… p < .01 ***…… p < .001)

的側面がやや低いという傾向がみられるものの、いずれの下位尺度においても有意な得点差は認められなかった。

日頃から親しくしている友人数を、5人未満(71名)、6人以上15人未満(109名)、16人以上(75名)の3グループに分け、3群間のAMPET各下位尺度得点を1要因分散分析によって検定した(表5参照)。その結果によると、全ての下位尺度において有意であり、多重比較の結果から、友人数の多い者の方が少ない者よりも、①学習ストラテジー、②困難の克服、③学習の規範的態度、④運動の有能感、⑤学習の価値、意欲的側面の得点が有意に高く、逆に⑥緊張性不安、⑦失敗不安、回避的側面の得点は有意に低かった。

考 察

本研究調査対象者のAMPET得点を、西田⁶⁾の標準化集団と比較してみると、体育学習への意欲的側面がやや高い傾向にあるものの、回避的側面

はほとんど同じ値であった。従って、この結果を総じて解釈すれば、本研究の対象者は、標準化集団と特に顕著な差異のない集団であったと考えられる。

AMPETと親子関係検査との相関係数は、全体的に低い値であった。例えば、調査対象者全体では、AMPETの意欲的側面と子供からみた両親に対する「拒否」との間に低い有意な正の相関が、「保護」、「服従」との間には低い有意な負の相関がみられた。このことは、両親の愛情が豊かで、世話や心配をかけてくれたり、また、子供の要求をなんでもかなえてくれると認知している子供は、体育における学習意欲が高いことを示唆している。また、AMPETの回避的側面と子供からみた両親に対する「拒否」、「支配」、「矛盾」、「不一致」との間に、低い有意な負の相関が調査対象者全体および男子においてみられた。この結果は、両親の愛情が乏しく不満を持っていたり、強い統制力と権力で子供を支配しようとしたり、父親と母親の態度や考え方に一貫性や一致がみられないと認

知している子供は、体育学習での不安が高いことを示唆している。しかし、いずれの相関も低い値であった。また、AMPETと両親からみた親子関係検査との相関はほとんどみられなかった。さらに、親子関係検査のいずれの下位尺度とも親の態度や扱い方が安全圏にある「安全地帯」の者と、それ以外の「危険地帯」や「中間地帯」にある者のAMPET得点は、部分的に差異がみられたものの特に顕著な得点差は認められなかった。

また、補足的ではあるが、兄弟数、兄弟のパターン、出生順位別にAMPET得点を比較してみたところ、兄弟数の多い方が一人っ子よりも、男子だけの兄弟の方が女子だけや男女の兄弟よりも、また、末っ子の方が長男・長女よりも、体育における学習意欲の意欲的側面が高く、回避的側面は逆に低い傾向を示した。しかしながら、いずれにおいても有意な得点差ではなかった。この結果は、体育における学習意欲が、兄弟が多いか少ないか、兄弟のパターンがどうであるか、最初に生まれたかそれとも最後であったのかといった要因にある程度影響されるが、一方ではそのような生得的に決められた要因よりも、生まれ育った生活環境や運動環境（遊び仲間、遊びの施設、場所など）により強く影響され規定されるものであることを示唆している。この仮説を支持するように、日頃から親しい友人数の多い者は少ない者と比較して、AMPETの意欲的側面が有意に高く、緊張したり失敗に対する不安といった回避的側面は有意に低かった。この結果は、遊び仲間や友人の多い者は、①学校生活や放課後などにおいて友達と一緒に遊んだり行動する機会が多い、②その中で成功や失敗といった感情経験を繰り返す、③困難なことや悩みがあった場合に相談しやすい、④仲間と一緒に運動する喜びを体験しやすい、⑤友人の長所や短所をみる機会が多いなどといった特徴を持つことから解釈できるであろう。

本研究は、体育における学習意欲の規定因や発達過程を探る中で、今回は主として親子関係という要因を取りあげたのであるが、研究結果を総じて解釈すると、体育における学習意欲と親子関係との関連性は、部分的には両者の関係が認められ

ているものの、それほど明確ではなかったと言える。その理由の1つに、使用した検査の測定する範囲や場面の違いがあげられよう。すでに述べたように、本研究で用いたAMPETは、体育における学習意欲を測定するものであり、学習意欲を測定する範囲は体育の授業に限定されたものであった。これに対する親子関係検査は、親が日常の家庭生活の中で、自分の子供に対してどのような態度でどのような扱い方をしているのかを調べるものであるが、測定対象とする内容は一般的な場面のものであった。例えば、具体的な質問項目は、「わたしの親は成績のことで、よその子とくらべて文句をいいます」、「わたしの親は、わたしとの約束をよくわすれます」などであった。従って、体育や運動との関わりにおける親子の関係（例えば、子供の運動や遊びに対する両親の激励や援助など）から、体育における学習意欲との関連性を検討する必要がある、そうすることによって両者の関係がかなり明確になってくるものと考えられる。また、体育における学習意欲の規定因という観点からすれば、運動やスポーツを中心とした子供の過去の家庭・生活環境、人的および物的な運動環境、運動への参加状況、家庭・生活環境などといった要因が考えられる。これらの要因と体育における学習意欲との関連性は、今後に残された課題である。

〈付 記〉

本研究は、「財団法人マツダ財団助成金」の補助を得て行われたものの一部である。資料の収集にあたっては、各学校の先生方を始め生徒や両親の皆さんに快く御協力頂きました。ここに深甚の謝意を表します。

引用・参考文献

- 1) 林 保・山内 郁「子どもの達成動機と母親の自律訓練との関係」京都学芸大学紀要, 25: 31-40, 1964.
- 2) McClelland, D. C., "The achieving society," Van Nostrand, 1961.
- 3) 宮本美沙子・岡野和子・依田 新「達成動機の育

- 成とその規定因」日本教育心理学会第10回総会宿題報告, 61-88, 1968.
- 4) 西田 保「体育における学習意欲の尺度構成と類型化の検討」総合保健体育科学, 10-1: 47-60, 1987.
- 5) Nishida, T., "Reliability and factor structure of the Achievement Motivation in Physical Education Test," *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 10: 418-430, 1988.
- 6) 西田 保「体育における学習意欲検査 (AMPET) の標準化に関する研究—達成動機づけ論的アプローチ」*体育学研究*, 34-1: 45-62, 1989.
- 7) 田中教育研究所編, TK 式診断的新親子関係検査, 田研出版, 1972.
- 8) Winterbottom, M. R., "The relation of need for achievement to learning experiences in independence and mastery," In J. W. Atkinson (Ed.) *Motives in fantasy, action, and society*, Van Nostrand, 453-478, 1958.

(1989年11月17日受付)

